



ひろば

vol. 99

川柳

「転ぶ」

転ぶなど 目を閉じて見る 真央ちゃんを
 転倒は 命とりだよ 高齢者
 転んでも 転べども立ち あんよ出来
 転んでも 只では起きない 君と僕
 転んでも 輝く強さ 大輔君
 人気者 土俵の外へ 転び出る
 お受験に すぎる転ぶは 禁句です
 日経は 転んで中華に 追い抜かれ
 転んでは 石の固さを 知らされる
 孫転び 声の助けで 笑顔起き
 雪降りて 転びつじやれる 小犬あり
 読者より
 桜かな 修羅の渦まく 花の下

山笑う 会話の進む 車椅子 政子

四月の行事予定

五日(日) 一四時 コーラス「ブークス」
 七日(水) 一四時 まどかグループ
 九日(金) 一〇時～一五時 花見遠足
 一〇日(土) 一五時 親睦会
 十一日(日) 一四時 翔の会コンサート(ピアノ)
 十二日(月) 一四時 押し花
 十五日(木) 九時 写真クラブ
 一四時 川柳「こいのぼり」
 一八日(日) 九時 散髪
 二〇日(火) 一四時 お花
 二七日(火) 九時五〇分 買い物
 二八日(水) 一一時 食事会
 九日(金)のお花見遠足はふれあいセンターに行きます。



ひととき

施設長 中島 聖恵

「ホッコラ、ホッコラ、本物の森作り」(その四)

三月十九日(金) いよいよ良友会『命を守る癒しの森づくり一万本植樹プロジェクト』第一回植樹祭の日が参りました。昨日までの雨が嘘のような真つ青の空、風もなくこの時期としては温かい植樹祭日和です。宮脇昭先生は前日から来院下さり、植樹に先駆けて、職員に植樹指導リーダー研修を本番さながら気迫せまる熱意でもってご指導下さいました。今回植樹したところは、良友会敷地の東の端の駐車場、お隣との境界、巾一・二m、七十五㎡という細長い狭い狭い土地です。「鎮守の森」に代表される潜在自然植生、その土地に適応している主木を取り違えない事。会社組織と一緒に、主木を支える三役、五役が本物でないと成長しません。自然界の掟に従って、主木を中心に出来るだけ多くの構成木を混植・密植する。植物は限られた空間で、互いに我慢し合いながら共に生きています。タブの木、アラカシ、シラカシ、関西以西にしかないというスタジイなどの高木、イロハモミジなどの亜高木、裾を色取るムラサキシキブ、チンチヨウゲ等々、四十八種類、五百本の苗木が用意されました。地域の操南、操明両連合町内会長様、副会長様はじめ、操明小学校を卒業されたばかりの二十三人の生徒さんも参加して下さい、職員共々総勢百人で植樹を行いました。最初、不安げな様子の皆様も、いざ植樹が始まると、リーダーの指導の下、夢中になって、「これぐらいの

距離で宜しいか」と植える間隔を訊ねあひながら、協力しあつて植えていくと、あつという間に植え終わってしまいました。最後は土が見えないように、苗木を傷つけないように、藁を敷き詰め、更に藁が飛ばないように両側から縄を掛けるのです。散らかった藁は、そのままではゴミになる、苗木に戻せば肥料になる。掛け声も素晴らしく、植樹された辺りはきれいに掃き清められて清々しい光景です。

生きていくものと向き合う事は、自分自身の命と向き合う事なのでしようか。「生命は宇宙の奇跡そのもの以外に他ありません。人間は食物連鎖の頂点に立っていると思つていますが、自然界の寄生虫でしかないのです。緑がなければ生きていけない。アフリカのケニアで植樹をしたときに、今晩食べる食べ物が無いよ。うな貧しい人達が裸足で、泥んこになりながら一生懸命に植樹をされ、木を植えたことで本能的に「心に木を植える」という生命の喜びを感じとつて、手を叩いて歌いながら踊り出す。本当にベリー・ハッピーなのです。幸福とは、今生きている事そのものです。」と宮脇先生は仰います。

植樹に参加された皆などの顔も輝いて、生き生きしているのです。解散して別れる時は、お互いに「有難うございます。」と感謝し合いながらのお別れです。皆の心に木が植えられたのでしよう。三本植えると森、五本で森林です。どんなに土地が狭くても空は無量大。命のドラマの幕開けの日でした。



三月の行事

